

わたらの 健康とくすり

第171号



今月の内容

- 狂犬病について
- 生姜の子カラ
- 意外と知らない貼り薬

モモ（バラ科）

中国西部原産のすぐれた果樹です。品種改良が進み、西王母という品種は1果の重さが800gにもなります。食べた後に残る核を割るとアーモンドそっくりの種子が出てきます。これは漢方では桃仁（とうにん）といい、婦人病関係の病気に使いますが、苦くて有毒ですので食用にはなりません。葉は肌を引き締める作用があり、煎じて化粧水にします。

写真・文 指田 豊

発行者 八王子薬剤センター

2010年3月発行

東京都八王子市館町1097 電話042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

茂木 徹



疾患シリーズ

動物由来感染症－狂犬病について

動物由来感染症の中から今回は「狂犬病」に関してご紹介いたします。

狂犬病とは

狂犬病は、「犬」だけが感染する病気だと思ってしまう方もいるかもしれませんが、人間も含めたすべての哺乳動物（アライグマ、スカンク、キツネ、コウモリなど）が感染する可能性のある病気です。狂犬病は、狂犬病ウイルスに感染した哺乳動物にかまれたり、引っかけた傷から唾液などを介して感染します。狂犬病に感染して発症してしまうと、現代の医学でも治療方法がない感染症です。

狂犬病の症状

狂犬病は感染して1～2ヶ月程経つと発症します。最初は風邪のような症状が現れます。かまれた部分が痛んだり、筋肉の痙攣が起きます。脳炎の症状として不安、錯乱、水を見たり、冷たい風にあたった時に、首の後ろの筋肉が痙攣する恐水症や恐風症と言われる症状が起きます。最終的には呼吸障害や、昏睡を起し死亡に至ります。

狂犬病の治療と予防法

狂犬病は一度発症してしまうと治療方法がありません。そのため感染が疑われたら、すぐにワクチンを接種し発症を抑えます。

日本での発症報告は昭和29年が最後

現在、日本は狂犬病の発生のない国です。狂犬病が、日本国内で、人で発症した最後の報告は昭和29年（1954年）、動物で発生した最後の報告は昭和31年（1956年）です。しかし、海外で犬にかまれて感染し、日本に帰ってきて発症した報告が、昭和45年（1970年）に1例、平成18年（2006年）に2例あります。日本は、1）犬に対する予防接種を実施しているため、2）検疫制度があるため、3）島国であるために、発生が少ないと言われています。

犬の予防接種

日本では、「狂犬病予防法」によって飼い犬の登録と、飼い犬に対する狂犬病の予防接種が義務付けられています。これにより、もし万が一日本で狂犬病が発生した場合でも狂犬病ウイルスから、飼い犬を守ることができ、人への感染のリスクも減らすことが出来るのです。

海外旅行に行く時は……

海外旅行に行く時、目的地が狂犬病の流行国であるようならば、むやみに動物に近づかないのが感染を防ぐ一番の方法です。どうしても動物と接触する、長期滞在し、その近くに医療機関がないような場合は、狂犬病の予防接種を受けるという方法があります。4週間間隔で2回、さらに6ヶ月後に1回追加接種をします。ただし、接種をしていた場合でも、かまれたりした場合にはその後の接種が必要です。狂犬病の予防接種が可能な医療機関については、検疫所のホームページ（<http://www.forth.go.jp>）等を参考にしてください。



ちょっとお耳を……

生姜のチカラ

生姜が入った料理や飲み物を摂取して、体の中からポカポカと温かくなった経験はありませんか？生姜といえば、体を温める効果がよく知られていますが、それだけではありません。今回は、生姜についてお話しします。

●生姜の辛味成分は3種類

- ・**ジンゲロール**：生の生姜に最も多く含まれる辛味成分で、ピリツとした辛さが特徴。免疫力をアップさせる作用がある。
- ・**ショウガオール**：加熱することによってジンゲロールから生成される成分。口に残り、じわじわ感じる辛さが特徴。体を温める効果が最も高い。
- ・**ジンゲロン**：ごく微量しか含まれていないが、強い辛味がある。

●生姜の効能

①血行促進作用

血液の循環をスムーズにして、体を温めます。エネルギー代謝が活発になり、体脂肪の分解・燃焼が促進されるため、冷え性やダイエットに有効といわれています。

②消化機能促進作用

胃腸を適度に刺激して消化吸収を促進するため、食欲増進や下痢・便秘の解消に効果的です。また、吐き気を誘発するセロトニンというホルモンの働きを抑える作用もあり、東洋医学では、乗り物酔いに生姜が用いられています。

③生活習慣病の予防

抗酸化作用、血栓を予防する作用、血圧を正常にする作用などがあり、動脈硬化や脳卒中、心筋梗塞などの生活習慣病の予防に有効といわれています。またアメリカでは、生姜に含まれる成分が、がんの発生や転移を抑えるという研究結果も発表されました。

④その他の作用

- 喉の痛みを和らげて、咳を抑える作用
- 肉や魚の臭みを消す作用
- 細菌の繁殖を抑え、食あたりを予防する作用

●1日の摂取目安は10g

過剰に摂取すると胃腸に負担がかかるため、1日の摂取目安は10g位にするとういでしょう。スライスなら6枚、おろしたもののなら小さじ1杯が10gの目安です。

身近な食材として馴染みのある生姜ですが、含まれる成分や効能をうまく利用して、健康に役立ててみてはいかがでしょうか？



おくすりQ&A

意外と知らない貼り薬

Q. いろいろな効果の貼り薬があると聞いたけど、どんな貼り薬があるの？

A. 確かにいろいろな効果の貼り薬があります。貼り薬の定義、種類、使用する時の注意を説明します。

貼り薬の定義

貼り薬は貼布剤ちょうふざいとも呼ばれ、「布またはプラスチックフィルムなどに延ばし、もしくは封入し、皮膚に粘着させて用いる外用剤」と定義されています。

貼り薬の効果

貼り薬というと、打ち身やねんごの際に用いる湿布薬を想像される方が多いのではないのでしょうか。しかし、実際には様々な効果を持つ貼り薬が病気の治療に用いられています。では、こういった貼り薬があるのか、以下に例をあげます。

気管支を拡げて呼吸を楽にする貼り薬（商品名：ホクナリン [®] テープなど）	
狭心症治療に用いられる貼り薬（商品名：フランドル [®] テープなど）	
禁煙治療の補助に用いられる貼り薬（商品名：ニコチネル [®] TTS [®] など）	
激しい痛みを和らげる貼り薬（商品名：デュロテップ [®] MTパッチなど）	

使用する時の注意

貼り薬は貼った場所だけに効果が発揮されるようなイメージがありますが、中には体全体に作用して効果を発揮する貼り薬もあります。体全体に作用する貼り薬は、皮膚の貼った部分から薬が吸収されて、血液に移行し、血流に乗って全身に薬が行き渡ることによって効果が発揮されます。しかし、全身に薬が行き渡ることが原因で望ましくない作用が出ることもあります。

例えば、狭心症の治療薬であるフランドル[®] テープを使うと、薬は心臓だけではなく、全身の血管にも作用し、人によっては、頭痛やめまい、ふらつきなどの望ましくない作用がでることもあるので注意が必要です。

決して他の人に譲らないように!!

薬が余っているからといって、ご家族やご友人に譲ることは安易にしないように注意しましょう。自分が使っていた貼り薬を他の人に渡して、それを使用した人に望ましくない効果が出てしまった例も報告されています。思わぬ結果を引き起こすことにもなるので、貼り薬に限らず、お薬を使用する際に疑問を感じたら、お近くの薬剤師にお気軽にご相談ください。